

# 都市計画道路佐井寺片山高浜線電線共同溝等予備設計業務

## 特記仕様書

### 1 総則

本業務の履行にあたっては、本特記仕様書によるほか、「設計業務共通仕様書(平成28年4月吹田市土木部)」(以下、仕様書という)によるものとする。

### 2 業務目的

都市計画道路佐井寺片山高浜線は、吹田市内の南部と北部を結ぶ重要な地域緊急交通路に指定されており、災害時の防災性の向上、歩行者の安全・快適な通行空間の確保、良好な景観形成を目的に無電柱化の整備を計画している。

今年度、同場所で発注を予定している他業務（佐井寺片山高浜線測量業務(その1)、(その2)、(その3)）の成果をもとに、無電柱化のための電線共同溝、歩道のセミフラット化・樹木の再整備・道路改良などの道路再整備のための予備設計を行うものとする。

### 3 業務概要

業務名：都市計画道路佐井寺片山高浜線電線共同溝等予備設計業務

業務場所：吹田市千里山松が丘地内ほか（別紙位置図のとおり）

業務期間：契約日から令和8年12月28日まで

### 4 業務内容

#### 設計業務

#### (1) 打合せ 1式

打合せ回数は、業務着手時・中間5回・成果品納入時の計7回とする。また、業務着手時及び成果品納入時には管理技術者が立ち会うものとし、新たな業務の追加がない限り、打合せ回数は設計変更の対象としない。また、業務に関する打合せ記録の整理は受注者が行うものとし、打合せ後速やかに提出するものとする。

#### (2) 道路予備設計 1式 (L=0.9km)

##### 1) 設計計画、現地踏査

業務の目的・主旨を把握したうえで、業務内容を確認し実施方針、工程計画、作業体制等を示す業務計画書を作成するものとする。記載する内容は仕様書によるものとする。この時、現地踏査により交差道路、用排水系統等の現地状況を確認及び

構造物の位置等の基本的事項の把握や既存資料の収集・整理を行うものとする。

## 2) 縦断設計、横断設計

他業務の測量結果を参考に道路再整備(歩道のセミフラット化・樹木の再整備・道路改良)に伴う縦断線形、横断構成、水路等を設計するものとする。

## 3) 道路付帯構造物及び小構造物設計、用排水設計

既存資料及び現地踏査の結果に基づき、既設構造物や排水経路の整理を行い、現地条件、設計条件に合致するよう道路再整備に伴う小構造物や用排水の位置、形式、基本寸法等の設計を行うものとする。設計の際、適用可能な工法・材料等を抽出し、経済性、施工性、維持管理性等の観点から比較検討を行うものとする。

## 4) 設計図及び協議資料作成

他業務の測量結果を参考に上記の設計に関する図面の作成や、関係機関との協議用資料・説明用資料の作成を行うものとする。また、都市計画道路佐井寺片山高浜線の整備予定範囲(L=約2.1km)について、土壌汚染に関する資料の作成を行うものとする。

## 5) 概算工事費算出

工事にかかる概算金額の算出をするものとする。使用材料及び工法については、物価資料並びに資材調査単価（大阪府公表）に基づくものとする。ただし、物価資料等に掲載の無い材料及び工法に限っては見積もりを1社以上徴収し、採用するものとする。工事工種の名称・順序等については、国土交通省国土技術政策総合研究所の定める積算体系ツリーに準ずるものとする。記載がないものについては、調査職員との協議のうえ決定するものとする。

## 6) 照査

設計条件、設計の考え方、構造細目等の確認及び計算書の検算等の照査を行うものとする。照査する内容は仕様書によるものとする。

## 7) 報告書作成

業務の成果として報告書及び設計概要書を作成するものとする。報告書は、読みやすい文章表現、文字の大きさ、文字の書体、レイアウト、イラスト、地図、画像、カラー等を工夫すること。報告書の内容は仕様書によるものとする。

## (3) 電線共同溝予備設計 1式(L=1800m)

#### 1) 設計計画、現地踏査

業務の目的・主旨を把握したうえで、業務内容を確認し実施方針、工程計画、作業体制等を示す業務計画書を作成するものとする。記載する内容は仕様書によるものとする。この時、現地踏査により地形、沿線利用状況、埋設物の確認等、基礎的な現地状況の把握や既存資料の収集・整理を行うものとする。

#### 2) 設計条件の整理検討

現地踏査等に基づき設計条件及び設計上の基本事項の整理・検討を行うものとする。

#### 3) 平面・縦断線形設計

「2) 設計条件の整理検討」により取りまとめられた基本的事項を基に、平面及び縦断線形の計画を行うものとする。また、既設占用物件について支障となるものの抽出及び調整を行うものとする。

#### 4) 管路部設計

管路部の管路口径と条数を決め管路部の断面形状を定めるものとする。その際、調査職員が指示した場合、各公益事業者と相互打合せを行い、決定事項を確認するものとする。

#### 5) 特殊部設計

特殊部の内空断面の設定を行うものとする。その際、調査職員が指示した場合、各公益事業者と相互打合せを行い、決定事項を確認するものとする。

#### 6) 地上機器設計

地上機器部について、電線共同溝本体形式の検討を行うものとする。その際、調査職員が指示した場合、各公益事業者と相互打合せを行い、決定事項を確認するものとする。

#### 7) 概算工事費算出

工事にかかる概算金額の算出をするものとする。使用材料及び工法については、物価資料並びに資材調査単価（大阪府公表）に基づくものとする。ただし、物価資料等に掲載の無い材料及び工法に限っては見積もりを1社以上徴収し、採用するものとする。工事工種の名称・順序等については、国土交通省国土技術政策総合研究所の定める積算体系ツリーに準ずるものとする。記載がないものについては、調査職員との協議のうえ決定するものとする。

8) 協議資料作成

関係機関との協議用資料・説明用資料の作成を行うものとする。

9) 照査

設計条件、設計の考え方、構造細目等の確認及び計算書の検算等の照査を行うものとする。照査する内容は仕様書によるものとする。

10) 報告書作成

業務の成果として報告書及び設計概要書を作成するものとする。報告書は、読みやすい文章表現、文字の大きさ、文字の書体、レイアウト、イラスト、地図、画像、カラー等を工夫すること。報告書の内容は仕様書によるものとする。

(4) その他

1) 構造物等の設計については、経済性や施工性だけでなく、維持管理の観点からも検討を行い現場に適した構造物の選定を行うものとする。

2) 本設計で引用した文献については、報告書内にその都度文献名及び頁を記載するものとする。

3) 本業務で設計検討した結果、既設構造物等（マンホールや消火栓、占有物件等）の嵩上げや移設等の必要が生ずる場合は、報告書(関係機関協議資料等)に記載するだけでなく設計図面及び数量計算書、移設協議資料等にも反映するものとする。

5 提出書類

受注者は、契約締結後すみやかに次の書類を提出し承諾を得た後着手すること。

- (1) 業務着手届
- (2) 下請業者名簿
- (3) 管理技術者届
- (4) 照査技術者届
- (5) 工程表
- (6) 業務計画書

なお、管理技術者及び照査技術者については、資格証の写し等有資格であることが確認できる書類及び直接雇用が確認出来る書類を添付すること。

6 成果品

- (1) 報告書（金文字黒箱・チューブファイル） 2 部
- (2) 設計図面折り 2 部
- (3) 報告書及び図面データ（CD-R） 2 部
- (4) その他発注者が必要と認めるもの 一式

なお、報告書及び図面については、Word、Excel、AutoCADで作成し、納品するものとする。また、標準品以外の材料等を使用する場合においては、3 者以上の製造会社等の見積書を添付するものとする。※電子納品要領（国土交通省）に準じた形式でのデータ提出は不要とする。

## 7 検査

本業務は、吹田市土木部設計等業務検査要領及び吹田市土木部設計等業務成績評定要領に基づき、検査及び成績評定を実施する。（吹田市HP参照）

## 8 誤謬等

本業務の成果の引渡し後、成果品に誤謬等が発見された場合には、受注者の責任において速やかに修正及び補正すること。また、不明確な箇所が確認された場合は、発注者への説明義務を果たすこと。

## 9 その他

本特記仕様書に定めのない事項や疑義が生じた場合は、速やかに発注者と協議して決定するものとする。また、今年度、同場所で発注している他業務（佐井寺片山高浜線測量業務(その1)、(その2)、(その3)）と連携し整合を図るものとする。

# 設 計 業 務 共 通 仕 様 書

吹 田 市 土 木 部

## 総 則

### [ 適 用 ]

1 この仕様書は、吹田市土木部の施行する設計業務に適用する。

ただし、特記仕様書で明記したほか、監督員が承諾した場合は、この仕様書によらないことができる。また、この仕様書に明記していない事項については「測量、調査作業及び業務委託等必携」（大阪府都市整備部）に準ずるものとする。

2 設計を実施するに当たり、この仕様書のほかに、下記設計示方書（指針）に、よらなければならない。

- ( 1 ) 道路構造令
- ( 2 ) 道路土工指針
- ( 3 ) コンクリート標準示方書
- ( 4 ) 道路橋示方書・同解説
- ( 5 ) 道路橋支承便覧
- ( 6 ) 舗装設計施工指針
- ( 7 ) 道路橋示方書・同解説 I 共通編 II 鋼橋編
- ( 8 ) 道路橋示方書・同解説 I 共通編 III コンクリート橋編
- ( 9 ) 道路橋示方書・同解説 I 共通編 IV 下部構造編
- (10) 道路橋示方書・同解説 V 耐震設計編
- (11) 道路橋標準設計図集 1 及び 2
- (12) 土木構造物標準設計 1 及び 2
- (13) 設計便覧（国土交通省）
- (14) 鋼道路橋塗装・防食便覧
- (15) 設計便覧（案）（近畿地方整備局）
- (16) 道路構造物道路附属施設標準設計（大阪府）
- (17) 緑化基準（街路樹編）（大阪府）
- (18) 視覚障害者誘導用ブロック設置指針・同解説
- (19) 道路照明施設設置基準・同解説
- (20) 立体横断施設技術基準・同解説
- (21) 吹田市景観まちづくり計画

## (22) インターロッキングブロック舗装設計施工要領

その他、「設計業務等共通仕様書（案）」（大阪府都市整備部）に記載されている「主要技術基準及び参考図書」とする。

（注）改訂が行われたもの及び上記以外に学会、協会より追加出版されたものについては、それぞれ改訂版及び追加出版物とする。

### [用語の定義]

この仕様書で使用する用語の定義は、次のとおりとする。

- （１） 監督員とは、発注者が定め、当該業務を担当し、監督する職員をいう。
- （２） 設計図書とは、金抜き設計書、図面、仕様書（別に定める仕様書「以下特記仕様書という」を含む。）及び現場説明事項をいう。
- （３） 指示とは、監督員が受注者に対し、必要な事項を示し、実施させることをいう。
- （４） 承諾とは、受注者から申し出た事項に対し、監督員が了解することをいう。
- （５） 協議とは、監督員と受注者が対等の立場で合議することをいう。

### [業務計画書]

- 1 受注者は、契約締結後１５日以内に業務計画書を監督員に提出し、内容について承諾を得なければならない。
- 2 業務計画書には、契約図書に基づき下記事項を記載するものとする。
  - （１） 業務概要
  - （２） 実施工程表
  - （３） 組織表及び緊急連絡表
  - （４） 使用する主な図書及び基準
  - （５） その他
- 3 業務計画書に重要な変更が生じた場合は、その都度変更計画書を提出しなければならない



ない。

#### [作業実施計画]

- 1 業務に当たり、設計対象区域を踏査し、地理、環境、交通量、水利、土地利用等を調査し、計画路線の現地を十分に把握しなければならない。
- 2 支障物件となるものは調書にまとめなければならない。
- 3 道路、水路等について、公私の不明確な場所については、公図及び土地台帳により調査確認しなければならない。
- 4 業務に文献その他の資料を引用した場合は、その文献資料名等を明記しなければならない。
- 5 踏査、在来施設調査その他必要な諸調査完了後、発注者の設計基準等に基づき概略設計を作成し、監督員の確認、承諾を得なければならない。
- 6 発注者は、業務に必要な土地調査書、測量成果書等の資料を貸与する。

#### [業務カルテ作成、登録]

受注者は、受注時は契約後10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から10日以内に、完了時は完了後10日以内に、測量調査設計業務実績情報サービス（TECRIS）に基づき、「業務カルテ」を作成し、監督員の確認を受けた後に、（財）日本建設情報総合センターに登録しなければならない。また、（財）日本建設情報総合センター発行の「登録内容確認書」を印刷して監督員に提出しなければならない。

#### [設計作業]

- 1 設計の計算根拠、資料等は全て明確にし、整理して提出しなければならない。
- 2 数量計算は、その方法、単位等全て監督員の指示により行うこととする。構造、仮設計算も同様とする。
- 3 設計図の作成に当たっては、次の点について監督員の承諾を得て行うこととする。

- ( 1 ) 縮尺
- ( 2 ) 図の大きさ
- ( 3 ) 工種名
- ( 4 ) 凡例
- ( 5 ) 図番
- ( 6 ) その他監督員が指示するもの

4 実施設計作成に当たっては、各細部の処理について、監督員に各々承諾を得た後順次進行させるものとする。また、承諾を得た後であっても業務完了前において条件、情報、計画等の変更により設計を変更するときは、監督員の指示により変更するものとする。

5 工法については、関係官公庁、企業との協議事項、施工箇所の状況、関係資料等を検討のうえ、工事の難易、経済性、工期等を考慮し、監督員と協議しなければならない。また、工法決定に至るまでの検討工法の種類、コスト比較、必要工期、施工の難易度、工事公害についての検討等を行った工法比較検討書を提出しなければならない。

なお、特定の材料、工法又は特許に関するものを採用する場合は、その見本説明書、理由書を発注者に提出し、協議し、承諾を得なければならない。また、これら事項に関連する関係官公庁、企業との協議は、受注者において発注者の事務委任により全て行うこととする。

6 占用許可（道路占用、河川占用等）を必要と認めたときは、監督員と協議のうえ、許可を得るための関係図書を作成しなければならない。

7 特記仕様書の必要がある場合は、監督員の指示により作成しなければならない。

#### [作業監理]

- 1 受注者は、業務の実施に当たり、関連する法令等を遵守しなければならない。
- 2 受注者は、業務上知り得た秘密を第三者に漏らしてはならない。
- 3 受注者は、常にコンサルタントとしての中立性を保持し、業務に当たらなければならない。
- 4 打合せ、協議は、議事録をとり、内容を明確にして、その都度監督員に提出し、確認を受けなければならない。また、主要な打合せ、協議には、管理技術者は必ず出席しな

ければならない。

- 5 受注者は、業務を施行するうえで技術資料等の諸情報を活用し、十分な比較検討を行うことにより、業務の高い質を確保することに努めるとともに、更に慎重に照査を実施し、設計図書に誤りがないよう努めなければならない。また、遺漏なき照査を実施するため、相当な技術経験を有する照査技術者を配置することとする。
- 6 照査技術者は設計全般にわたり以下に示す事項について照査を実施し、照査結果報告書を提出しなければならない。
  - (1) 基本条件の検討内容
  - (2) 比較検討の方法及びその内容
  - (3) 設計計画（構造計画、仮設計画等をいう。）の妥当性
  - (4) 計算書（構造計算、容量計算、数量計算等をいう。）
  - (5) 計算書と設計図の整合性
  - (6) 施工方法の妥当性
- 7 受注者は、業務完了時に監督員の審査を受けなければならない。

審査において、訂正を指示された箇所は直ちに訂正し、再審査を受けなければならない。
- 8 業務の審査に合格後、本仕様書に指示された提出図書一式を納品し、発注者の検査員の検査をもって業務の完了とする。
- 9 業務完了後（納品引渡し後）において明らかに受注者の責めによる業務の瑕疵が発見された場合、受注者は直ちに当該業務の修正を行わなければならない。また、その設計により工事発注後において前述のような瑕疵が発見され、かつ、工事に手戻り等損失が生じたときは、受注者がその工事受注者と協議して解決しなければならない。

#### [成果品の提出]

「測量、調査作業及び業務委託等必携」（大阪府都市整備部）の成果品一覧表に基づき提出するものとする。

[ 疑 義 ]

- 1 本仕様書、その他明記のない細部については疑義が生じた場合は、監督員と協議し、その指示に従わなければならない。
- 2 受注者は、設計図書に記載された事項の解釈について疑義を生じた場合は、監督員と協議し、指示に従わなければならない。

改訂97.04.01

改訂00.07.01

改訂12.04.01

改訂13.06.01

改訂16.04.01